

## ①署員の 6 割超が“事件以降”の世代に…母親と子供 3 人が犠牲の殺人放火事件から 20 年 遺族が署員に「諦めないで」

9/9(月) 21:32 配信

FNNプライムオンライン



[FNN プライムオンライン](#)

愛知県豊明市で母親と子ども 3 人が犠牲になった殺人・放火事件から 2024 年 9 月 9 日で 20 年となります。節目の日、遺族が捜査員に伝えたメッセージは…。

### [【画像】豊明市役所に亡くなった 4 人の写真を展示してある](#)

愛知県豊明市。20 年前のきょう事件があった現場では、殺害された加藤利代さん（当時 38）の姉・天海としさん（62）が花を手向けました。

天海としさん：

すぐに解決するであろうと、私も家族もみんな思っていたので。20 年、いい報告ができな  
いことが本当につらいです。

豊明市杣掛町の住宅で起きた殺人・放火事件。加藤利代さん（当時 38）と当時 9 歳から 15  
歳の子どもをあわせて 4 人が刃物で刺されるなどして殺害され、現在も犯人は逮捕されてい  
ません。

警察はこれまで捜査員のべ 5 万 5260 人体制で捜査を続けてきましたが、時間の流れととも  
に事件への関心は薄れ、ここ 1 年間の情報提供は 6 件に留まりました。

20 年の区切りの年を迎え、事件を風化させたくないという思いをより強くした天海さん…。

天海としさん：

里奈の写真が少ないので、何かないかなと探したら 1 枚出てきたので。あとは正悟が大き  
くなったらの夢と…。

豊明市役所に協力を求め、亡くなった 4 人の写真などを展示しています。

しかし、捜査をする警察にも時間という壁があります。特別捜査本部が置かれている愛知署  
では、事件以降に警察官となった署員が 6 割を超えるまでになり、天海さんは 9 日、遺族  
の思いを改めて伝えました。

天海としさん：

事件当日が 9 歳の誕生日だった。（将来の夢の）警察官になることができなかった次男の正  
悟も、確かに生きていました。豊明で 20 年前にこんな悲惨な殺人放火事件があったことを、

ここにいる愛知警察署の警察官の方にはどうか知っておいてほしいと思っています。  
次男の正悟さんの、叶えられなかった「警察官になる」という夢。事件の解決を願う遺族の  
思いは届くのでしょうか。

天海としさん:

犯人を検挙できるのは、ここにいる警察官の方たちだけです。事件を諦めないで、そして勝  
手に終わらせないでください。

(東海テレビ)

東海テレビ

## ②【未解決事件】母親と子ども3人を殺害、家に火を放つ 事件から20年 県警OBと遺族の思い

9/9(月) 19:33 配信



動画

[【未解決事件】母親と子ども3人を殺害、家に火を放つ 事件から20年 県警OBと遺族の思い \(メ〜テレ \(名古屋テレビ\)\) - Yahoo!ニュース](https://news.yahoo.co.jp/articles/79acca788dc28037ba587f3a54d8d3e3c02dfb48)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/79acca788dc28037ba587f3a54d8d3e3c02dfb48>

愛知県豊明市の住宅で母親と子供3人が殺害、放火された事件は9日で20年です。当時捜査していた愛知県警OBが現場で感じた犯行の経緯と動機とは――

「事件発生からきょうで20年です。事件現場ではまもなく献花式が行われます」(上坂嵩アナウンサー)

花を手向け、静かに手を合わせる天海としさん(62)。

20年前、天海さんは妹とその3人の子どもたちを失いました。

Q.事件を知らない人も知っている人もいるかもしれない、どう呼びかけたい？

「今だから言える一言をどうか、情報提供してもらいたいと強く思っています」(被害者遺族 天海としさん)

事件は2004年9月9日未明、豊明市杓掛町の加藤博人さんの住宅で起きました。

当時、家にいた妻の利代さん(当時38歳)、長男の佑基さん(当時15歳)、長女の里奈さん(当時13歳)、次男の正悟くん(当時9歳)の4人が何者かに殺害され、住宅が放火されました。

窓ガラスは割れ、黒く焼け焦げた家。事件の悲惨さを物語ります。

現場の消火活動にあたった消防隊員は当時をこう振り返ります。

「飼っていた犬が炎上している建物周りを駆けていたことを記憶しています。私が経験したなかでもこの様な悲惨な火災現場に遭遇したことはありませんでした」(元消防士の手記)

警察は殺人放火事件として特別捜査本部を設置。

これまでに延べ約5万5000人の捜査員を動員しました。

2020年には容疑者が乗っていた可能性がある不審車両の日撃情報を新たに公開。

情報提供を呼びかけていますが去年9月9日以降、情報提供は6件にとどまっています。

「節目節目じゃないと覚えて頂けないような、時間の流れを感じているところなので、やっぱり焦りはすごくあるし、このまま終わってしまうんじゃないかという気持ちは大きい」  
(天海さん)

### 元捜査員が語る“犯人像”



「火をつけられて基本的な資料ですね、DNA（型）とか血痕とか指紋とか、そういった資料が多く焼失したというのが、やはり大きいのではないかと思います」(当時の捜査員)

捜査が難航していることについて発生当時から捜査に関わった愛知県警OBはこう振り返ります。

「部屋がそれぞれ亡くなられた子どもさんが別々なので、お母さんも別の部屋で亡くなられているということで、これは物取り（窃盗）で見つかって、顔を見られて殺害されたというよりも、殺害を目的としたものだな、そういう印象ですね」(当時の捜査員)

4人を殺害した凶器も見つからず、犯行は単独犯か複数犯によるものなのか、犯人は家のどこから侵入したのかも分かっていません。

20年もの間、残り続ける大きな事件の謎。

警察をやめた今も、当時の事件の状況を鮮明に覚えているといいます。

「何とか事件を解決したかったんですけど、解決できなかったというのが、今も捜査は進んでいるんですけど、非常に悔いが残る重い事件。事件について抱え込んでいる情報を持っていた方も20年間忘れていない。ですから、それを20年たったというこの機会に吐き出してほしいという感じがします」(当時の捜査員)

「記憶の風化」とたたかい続ける



### 被害者遺族 天海としさん

遺族の天海さんは、豊明市役所の協力のもと、妹らのイラストや事件を報じる新聞記事などの展示会を6日から開催しています。

「正悟が大きくなったらの夢…ここ豊明で生きていたことを忘れてほしくない」（天海さん）

事件から20年、「記憶の風化」とたたかい続ける被害者遺族。

天海さんは9日、捜査本部が置かれる愛知警察署で講演し、事件後に採用された警察官たちにこう訴えました。

「どうかお願いします。事件を諦めないで、そして勝手に終わらせないでください。事件発生時は今世紀最大の殺人事件と言われてきました。せめてここ豊明で20年前に、こんな悲惨な殺人放火事件があったことを、ここにいる愛知警察署の方には知っておいてほしい。忘れずに捜査していただき、犯人を検挙してください」（天海さん）

一番長いと思われるテレビ報道です。

地元で、小さい市だからかもしれませんが、行政の協力が、ちょっとうらやましいです。

③逮捕「絶対に諦めない」 豊明母子4人殺害20年

2024/09/08 05:00



遺族の天海としさん。愛知県豊明市役所では事件を伝えるパネル展が開かれている（6日）＝稲垣政則撮影



天海さんのスマホ。殺害された4人の名前と事件から過ぎた



日数が表示されている（6日）

左から佑基君、利代さん、里奈さん、正悟君（天海さん提供）

妹と2人のおい、めいの計4人を失った天海としさん（62）は時々、スマホのアプリで過ぎた月日を数える。カウントが7305日となる9日、愛知県豊明市で起きた母子4人放火殺人事件は、発生から20年を迎える。喪失感で立ち止まりそうになる時、天海さんの支えになったのが、同じように大切な人を奪われた遺族の仲間たちだ。（小池拓海、戸田貴也）肩を組み、歯を見せ、にっこりと笑い合う天海さんと、妹の加藤利代さん。事件の3か月前に撮影した写真を天海さんは今も大切にしている。「私はおっちょこちょい、妹は慎重。性格は違えど、何でも話せる仲良し」。おいとめいの3人も、天海さんの家によく遊びに来る家族同然の存在だった。3人の誕生日には、料理上手の利代さんがごちそうを振る舞うのが習わし。だが、そんな日常はおいの正悟君が9歳になった誕生日に一変した。

「4人の夢や希望を奪った犯人は絶対に許さない」。そんな自身の気持ちと相いれないと感じたのが、時効制度だった。「（事件当時の公訴時効の）15年が過ぎれば許されてしまう。そんなことあってたまるか」。2009年、殺人事件の被害者遺族らでつくる「宙そらの会」が結成されたことを知ると、入会をためらう理由はなかった。

こんなにつらい思いをするは私だけなんだろうか……。事件直後の孤独感も、同会で出会った遺族と「一緒に時効撤廃を勝ち取ろう」と励まし合う中で和らいだ。翌10年4月に改正刑事訴訟法が成立し、殺人の公訴時効は撤廃された。その瞬間を国会で見届けた天海さんは、感極まって涙した。

ただ、撤廃後も事件解決の兆しは見えなかった。命日を迎える度に「また事件と向き合う1年が始まるのか」と気持ちが沈んだ。そんな時に支えになったのが、同会代表幹事の高羽悟さん（68）だ。1999年に名古屋市西区で妻（当時32歳）が殺害された未解決事件の遺族で、情報提供を呼びかけるビラ配りに何度も付き添ってくれた。

同会は現在、DNA分析で得られた性別や年齢などの情報を生かす捜査手法の採用を提言している。海外では現場で見つかったDNA情報から、容疑者の似顔絵を作成して事件解決に至った例があるという。

2人は「犯人が捕まるまでは私たちは絶対に諦めない。どんなわずかな情報でも連絡してほ

しい」と呼びかけている。情報提供は愛知署特別捜査本部（0561・39・0110）へ。

母子4人放火殺人事件 2004年9月9日未明、愛知県豊明市沓掛町の加藤博人さん方で、妻の利代さん（当時38歳）と、長男の佑基君（同15歳）、長女の里奈さん（同13歳）、次男の正悟君（同9歳）が刃物で刺されるなどして殺害された上、自宅も放火されて全焼した。事件は未解決で、県警は殺害目的とみて捜査を続けている。